

HPVワクチン接種後の症状に対する 認知行動療法的アプローチ

慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究
研究代表者: 牛田 享宏 愛知医科大学学際的痛みセンター教授

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

HPVワクチン接種後に症状を生じ、牛田班所属医療機関を受診した者^{*1}の転帰

受診したもの	フォロー出来た者	フォロー出来た者210名の内訳		
		痛みが消失又は軽快 ^{*2}	痛み不変	痛み悪化
344	210	152	46	12
	61.0%	72.4%	21.9%	5.7%

*1 HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例(N=244)及び関節炎など他の要因が明らかでありHPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例(N=100)の合計

*2 「軽快の判断基準: 初診時と比べて、
 ・ 痛みのため全く通学できなかったが、痛みがありながらも毎日学校に行けるようになった、
 ・ 本人の主観として、痛みがよくなった、痛みはあるが痛みとうまくつきあえるようになった等のケースであり、完全に痛みがなくなった、というものではない

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

HPVワクチン接種後の症状に対する認知行動療法的アプローチの効果について

厚生労働科学研究事業 慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究班
 (研究代表者: 愛知医科大学 牛田享宏) 所属医療機関における集計(平成28年11月末現在)

HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例(N=244)

受診したもの	フォロー出来たもの	フォロー出来たもの156名の内訳		
		痛みが消失又は軽快 [*]	痛み不変	痛み悪化
244	156	115	32	9
	(63.9%)	(73.7%)	(20.5%)	(5.8%)

関節炎など他の要因が明らかであり

HPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例(N=100)

受診したもの	フォロー出来たもの	フォロー出来たもの54名の内訳		
		痛みが消失又は軽快 [*]	痛み不変	痛み悪化
100	54	37	14	3
	(54.0%)	(68.5%)	(25.9%)	(5.6%)

*「軽快の判断基準: 初診時と比べて、
 ・ 痛みのため全く通学できなかったが、痛みがありながらも毎日学校に行けるようになった、
 ・ 本人の主観として、痛みがよくなった、痛みはあるが痛みとうまくつきあえるようになった等のケースであり、完全に痛みがなくなった、というものではない

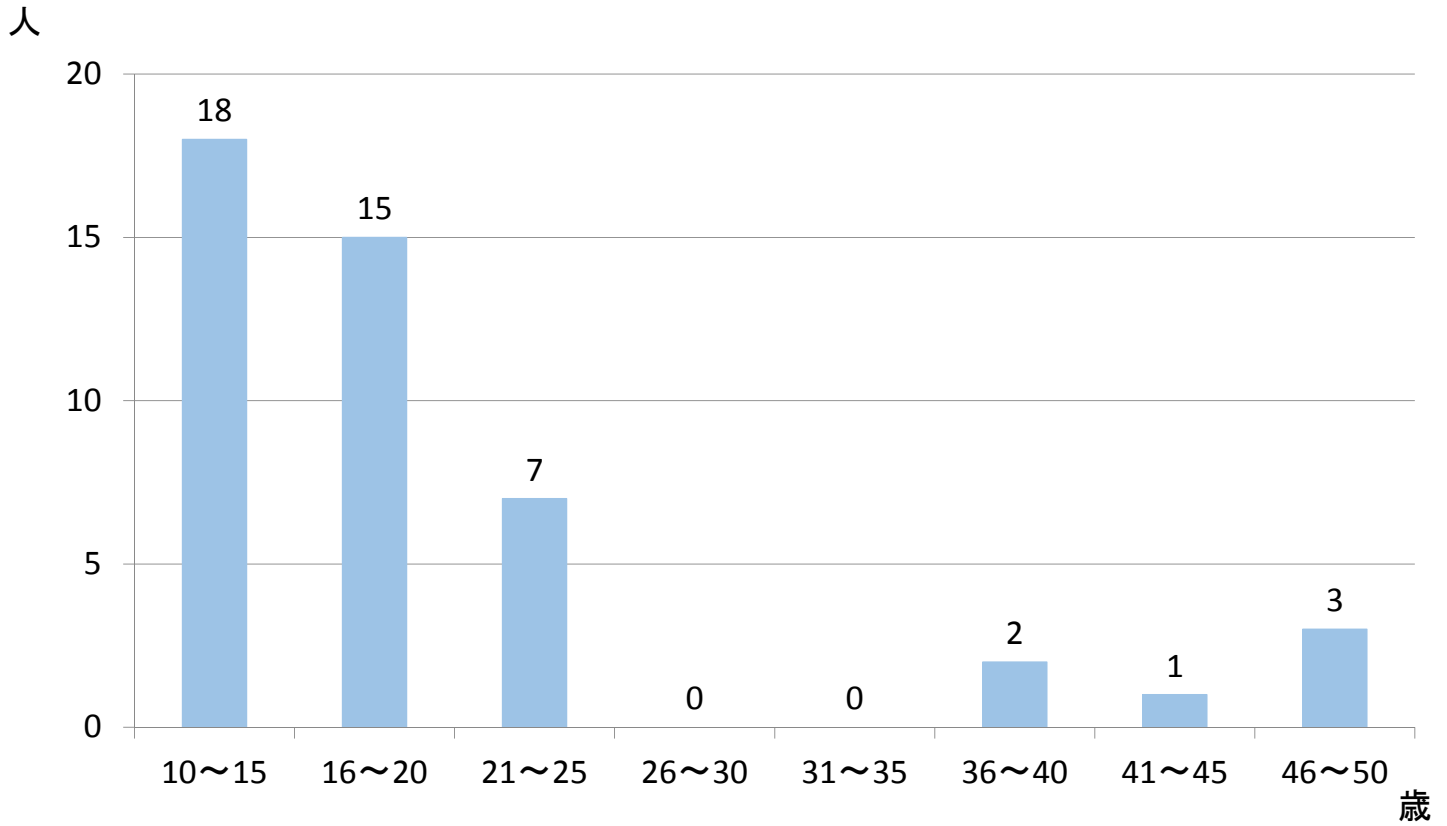
- 1 2013年8月～2016年11月までに
愛知医科大学痛みセンターを受診した46名の
①基本特性 ②症状の転帰
- 2 HPVワクチン接種後の持続痛に対する
学際的アプローチ

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

- 1 2013年8月～2016年11月までに
愛知医科大学痛みセンターを受診した46名の
①基本特性

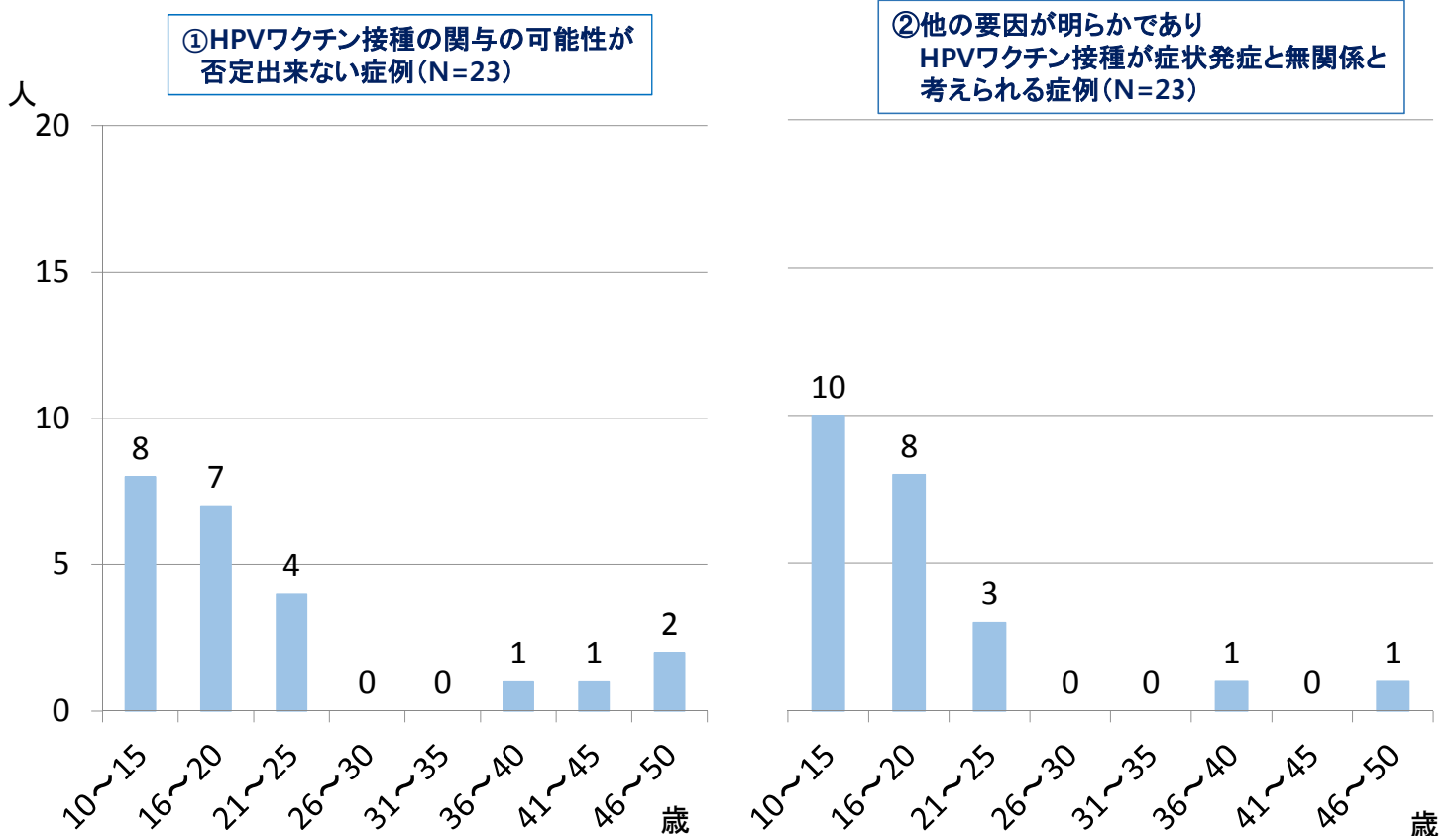
平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

初診時年齢 N=46



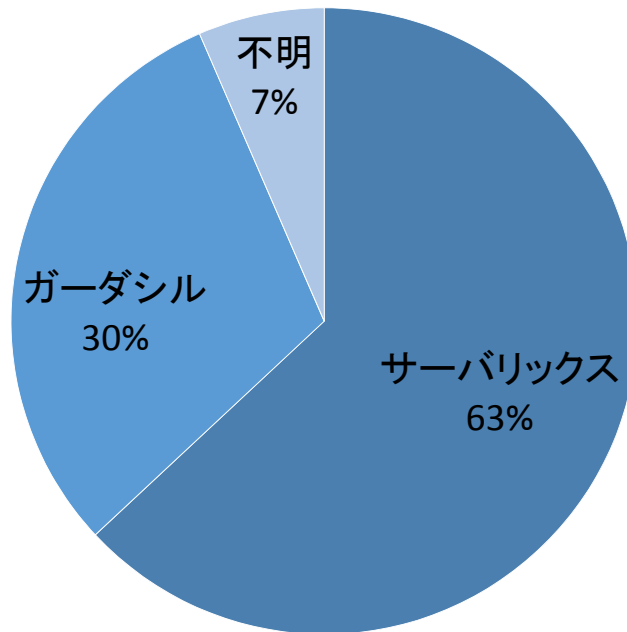
平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

初診時年齢



平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

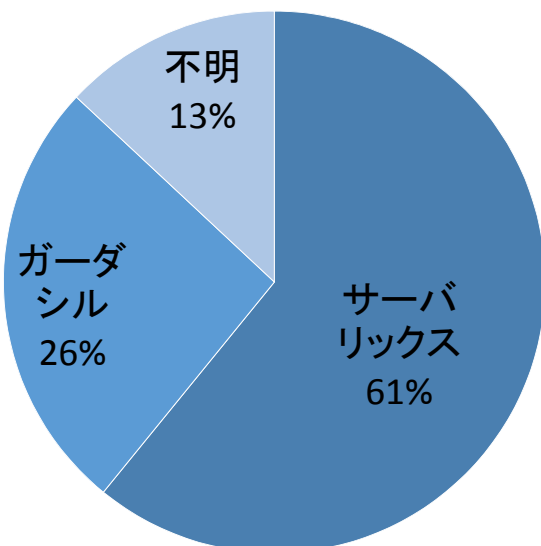
接種ワクチン N=46



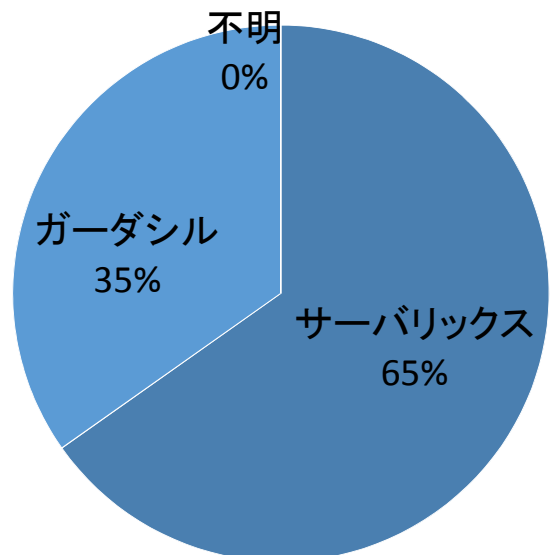
平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

接種ワクチン

①HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例(N=23)

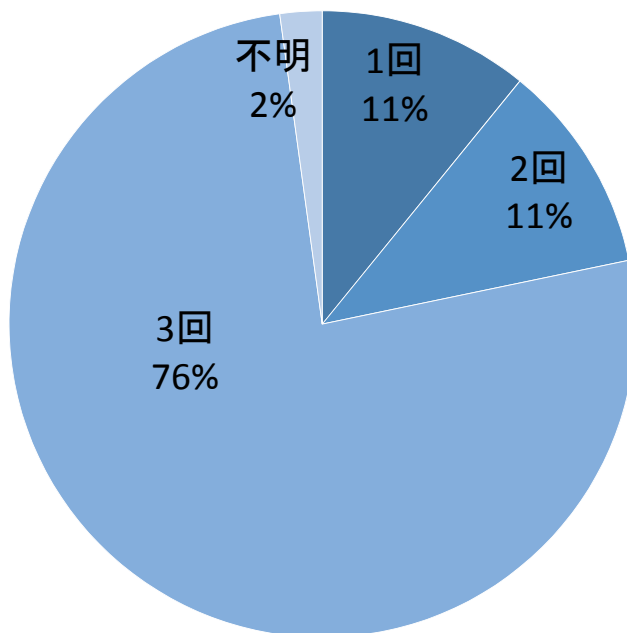


②他の要因が明らかでありHPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例(N=23)



平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

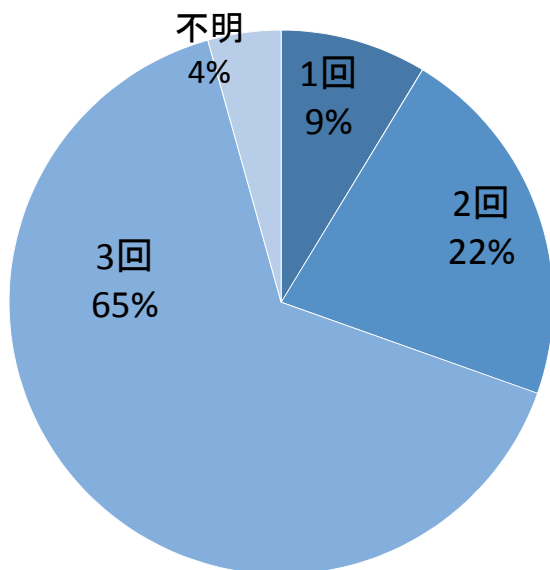
接種回数 N=46



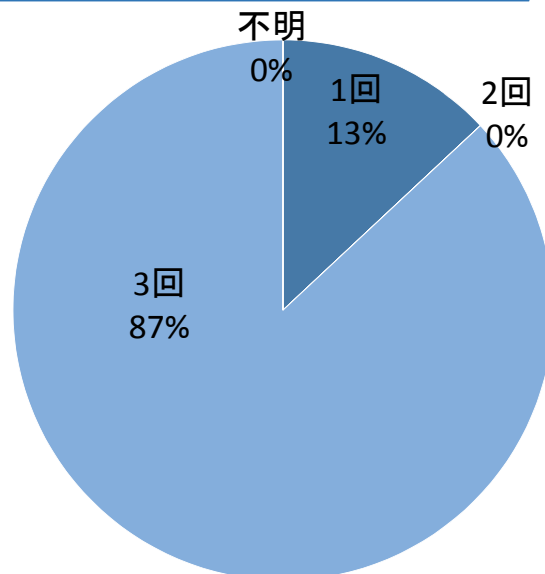
平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

接種回数

①HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例 (N=23)

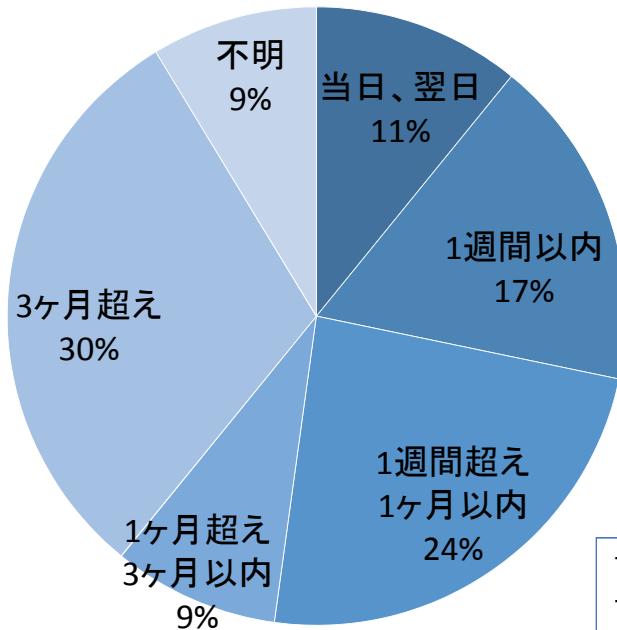


②他の要因が明らかであり HPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例 (N=23)



平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

接種から発症までの期間 N=46

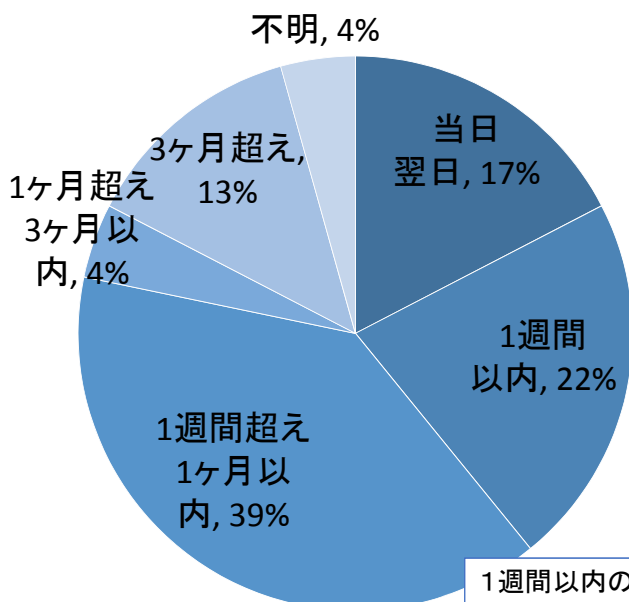


1週間以内の発症は 28%
1ヵ月以内の発症は 52%

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

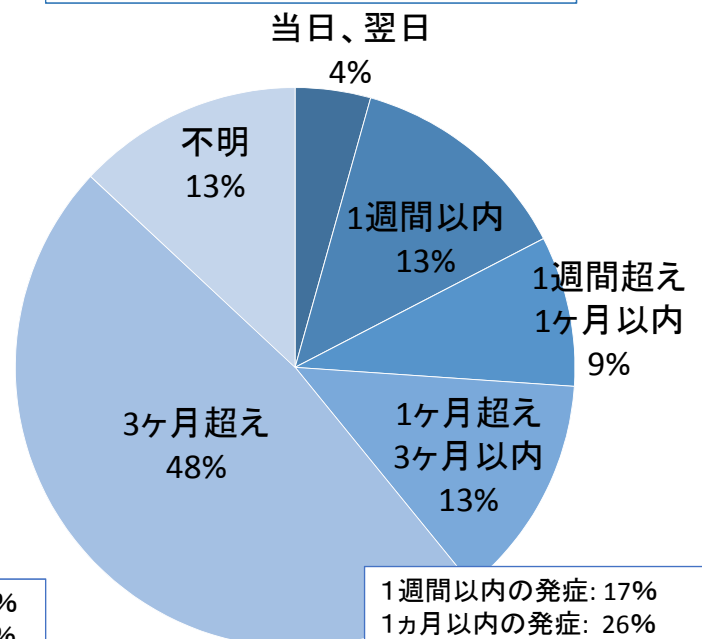
接種から発症までの期間

①HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例(N=23)



1週間以内の発症: 39%
1ヵ月以内の発症: 78%

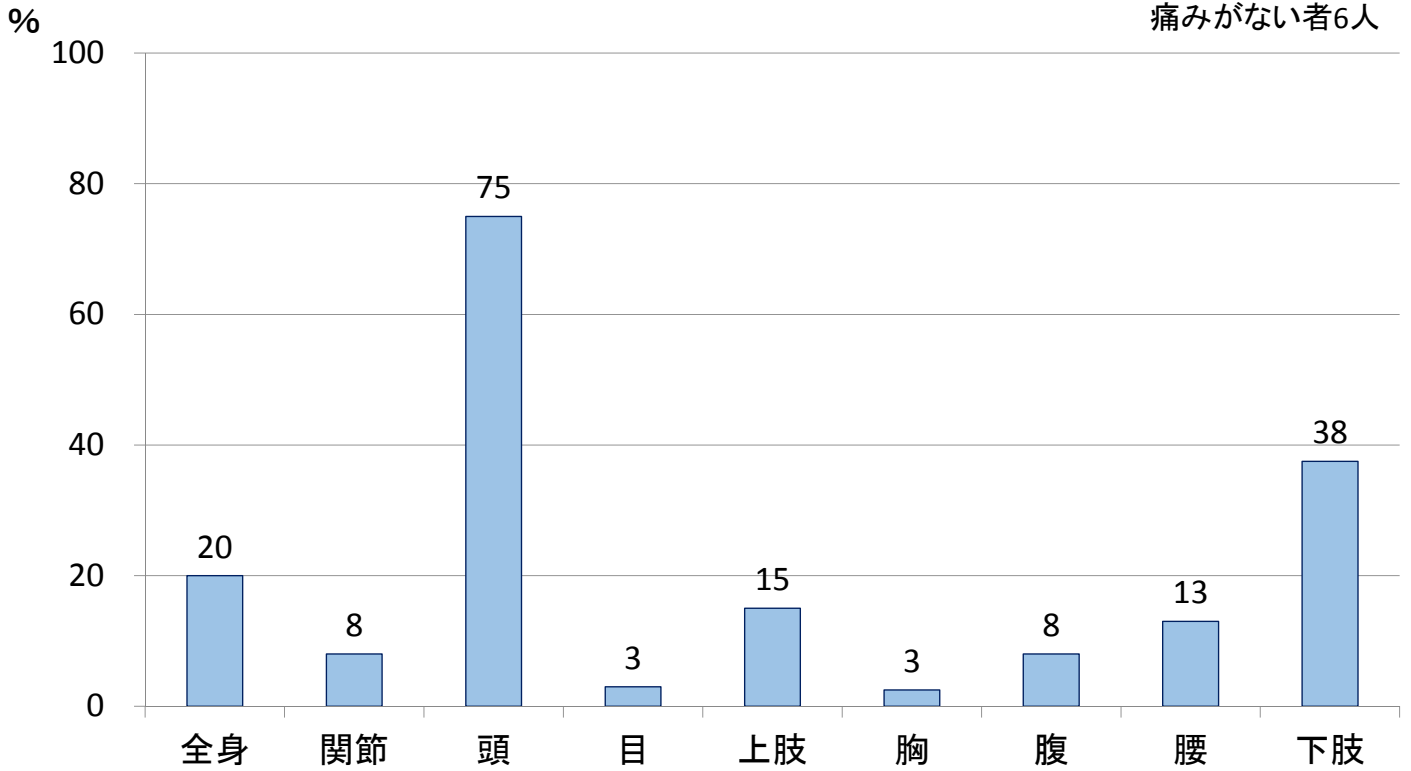
②他の要因が明らかでありHPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例(N=23)



1週間以内の発症: 17%
1ヵ月以内の発症: 26%

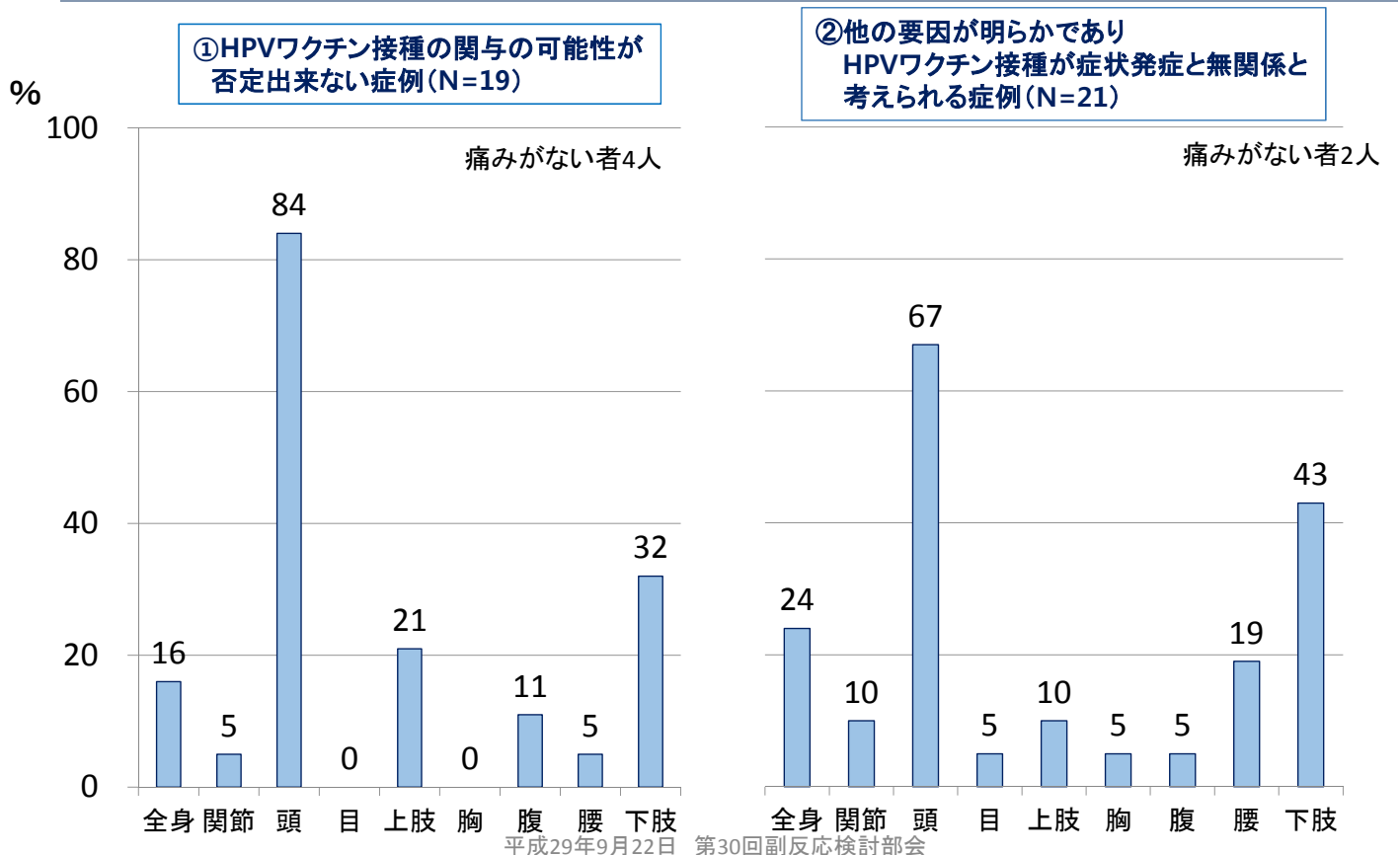
平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

痛みを有する者の割合（部位別） N=40



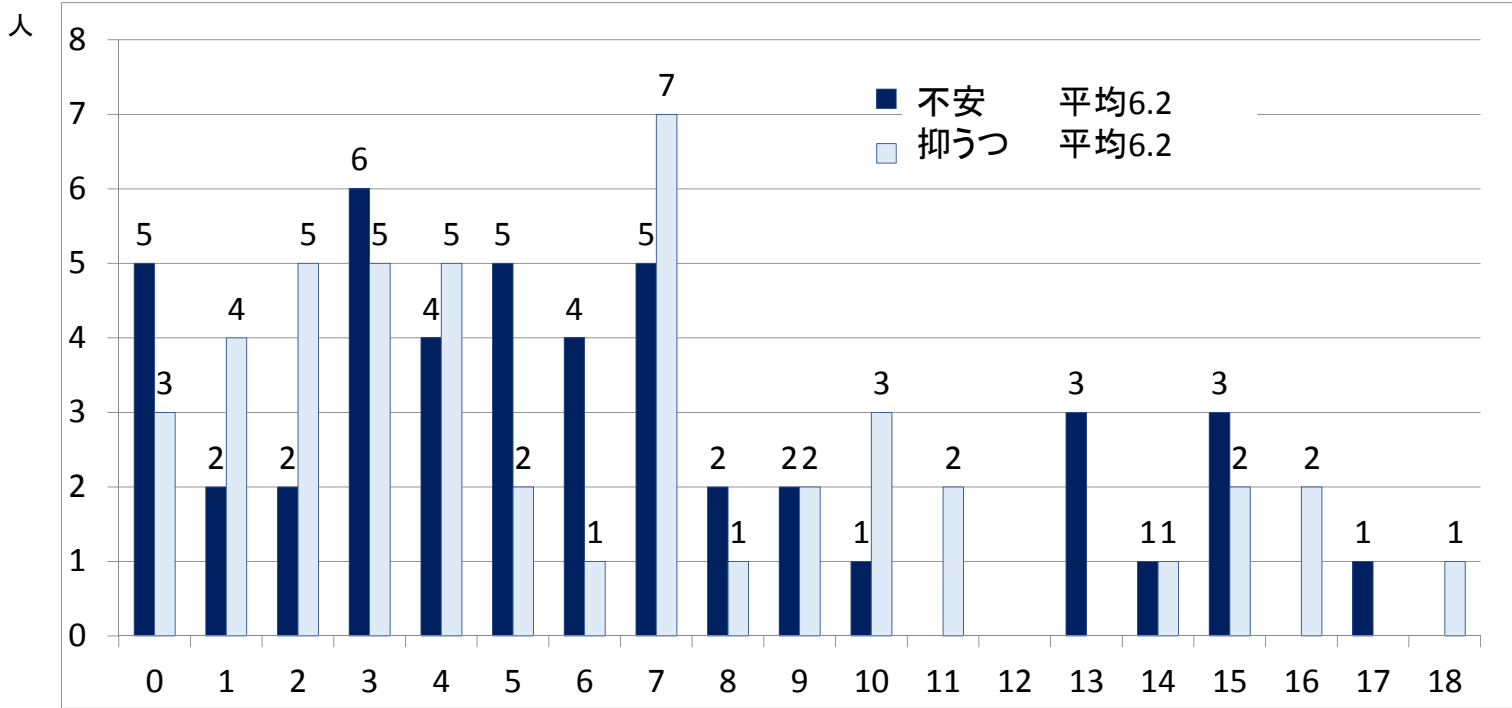
平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

痛みを有する者の割合（部位別）



Hospital Anxiety and Depression scale : HADS

N=46



HADS: 抑うつと不安に関する精神的状況を計測する尺度

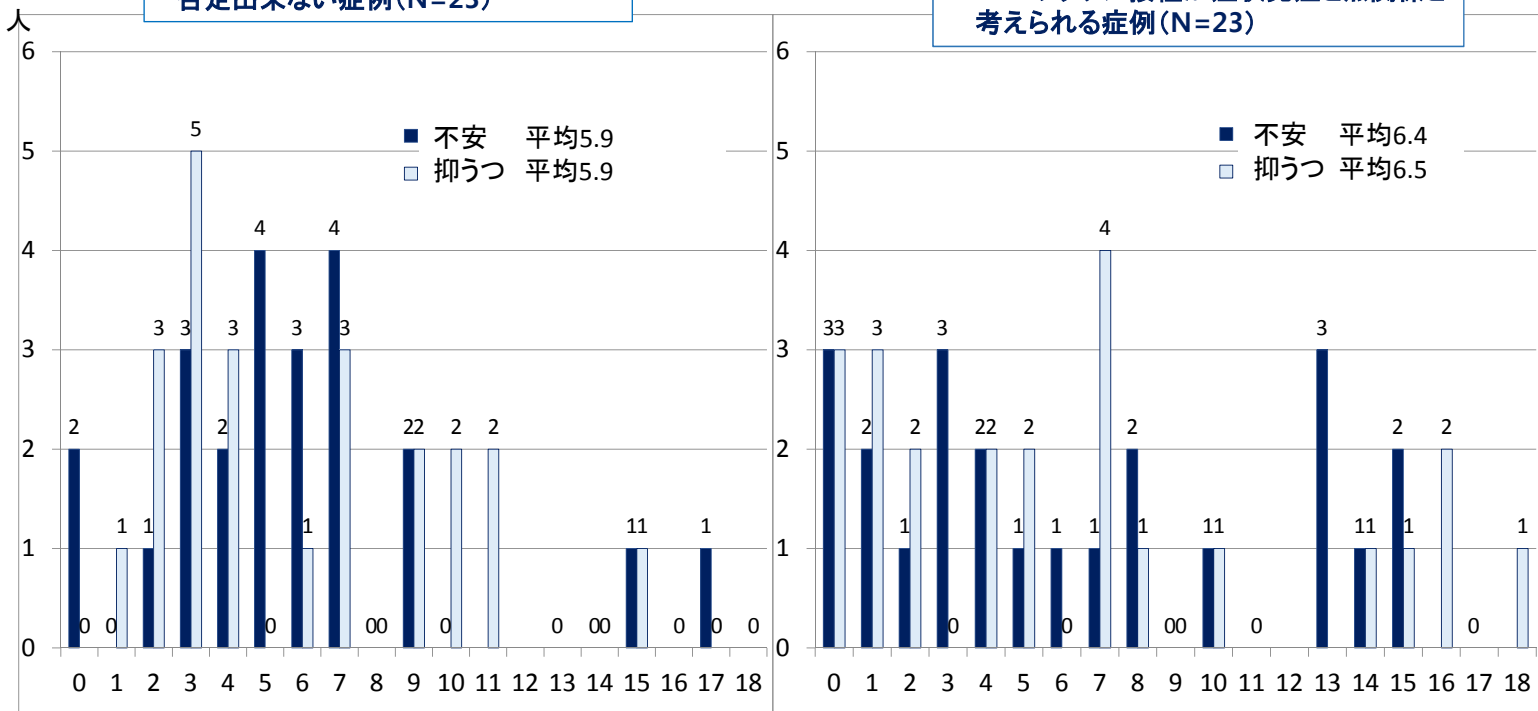
7点以下は問題なし、8~10点は臨床的に苦悩の可能性あり、11点以上は臨床的に明確な苦悩

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

Hospital Anxiety and Depression scale : HADS

①HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例(N=23)

②他の要因が明らかであり HPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例(N=23)



HADS: 抑うつと不安に関する精神的状況を計測する尺度

7点以下は問題なし、8~10点は臨床的に苦悩の可能性あり、11点以上は臨床的に明確な苦悩

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

痛み破局化スケール Pain Catastrophizing Scale: PCS

痛みの破局化思考の3要素

Rumination 反芻(痛みにとらわれ、痛みが頭から離れないこと)

Magnification 拡大視(痛みを必要以上に強い存在と感ずること)

Helplessness 無力感(痛みに対して何もできないと信じ込んでしまうこと)

	HPVワクチン 接種後の患者 (平均) N=46	①HPVワクチン接種の関 与の可能性が否定出来な い症例(N=23)	②他の要因が明らかであり HPVワクチン接種が症状発 症と無関係と考えられる症 例(N=23)	(参考) 愛知医科大学痛みセンターを 受診した一般の慢性痛患者* (平均)
PCS	28.4	25.0	31.9	32.2
HADS不安	6.2	5.9	6.4	7.4
HADS抑うつ	6.2	5.9	6.5	8.1

*(M.Inoue Pain Res Manag. 2014.)

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

1 2013年8月～2016年11月までに
愛知医科大学痛みセンターを受診した46名の
②症状の転帰

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

HPVワクチン接種後に症状を生じ、愛知医科大学痛みセンターを受診した者^{*1}の転帰

受診したもの	フォロー出来た者のうち痛み症状のある者	フォロー出来た者のうち痛み症状のある者（24名）の内訳		
		痛みが消失又は軽快 ^{*2}	痛み不変	痛み悪化
46	24	17	7	0
	52.2%	70.8%	29.2%	0.0%

*1 HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例(N=23)及び関節炎など他の要因が明らかでありHPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例(N=23)の合計

*2 「軽快の判断基準：初診時と比べて、
 ・ 痛みのため全く通学できなかったが、痛みがありながらも毎日学校に行けるようになった、
 ・ 本人の主観として、痛みがよくなった、痛みはあるが痛みとうまくつきあえるようになった等のケースであり、完全に痛みがなくなった、というものではない

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

HPVワクチン接種後に症状を生じ、愛知医科大学痛みセンターを受診した者の転帰

① HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例(N=23)

受診したもの	フォロー出来た者のうち痛み症状のあるもの	フォロー出来た者のうち痛み症状のある者（13名）の内訳		
		痛みが消失又は軽快 [*]	痛み不変	痛み悪化
23	13	10	3	0
	56.5%	76.9%	23.1%	0.0%

② 他の要因が明らかでありHPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例(N=23)

受診したもの	フォロー出来た者のうち痛み症状のある者	フォロー出来た者のうち痛み症状のある者（11名）の内訳		
		痛みが消失又は軽快 [*]	痛み不変	痛み悪化
23	11	7	4	0
	47.8%	63.6%	36.4%	0.0%

*「軽快の判断基準：初診時と比べて、
 ・ 痛みのため全く通学できなかったが、痛みがありながらも毎日学校に行けるようになった、
 ・ 本人の主観として、痛みがよくなった、痛みはあるが痛みとうまくつきあえるようになった等のケースであり、完全に痛みがなくなった、というものではない

2 HPVワクチン接種後の持続痛に対する学際的アプローチ

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

基本的な診療スタンス

- ワクチン接種と症状との因果関係は不明
- 原因を確定できない慢性痛は多い



痛みの原因を求めず、まずは慢性痛に対する対処を行ってみましょう

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

慢性痛の治療目標



慢性痛患者

慢性痛に悩み、様々な病院を受診
痛みのことばかり考えている
日常生活がうまくできていない



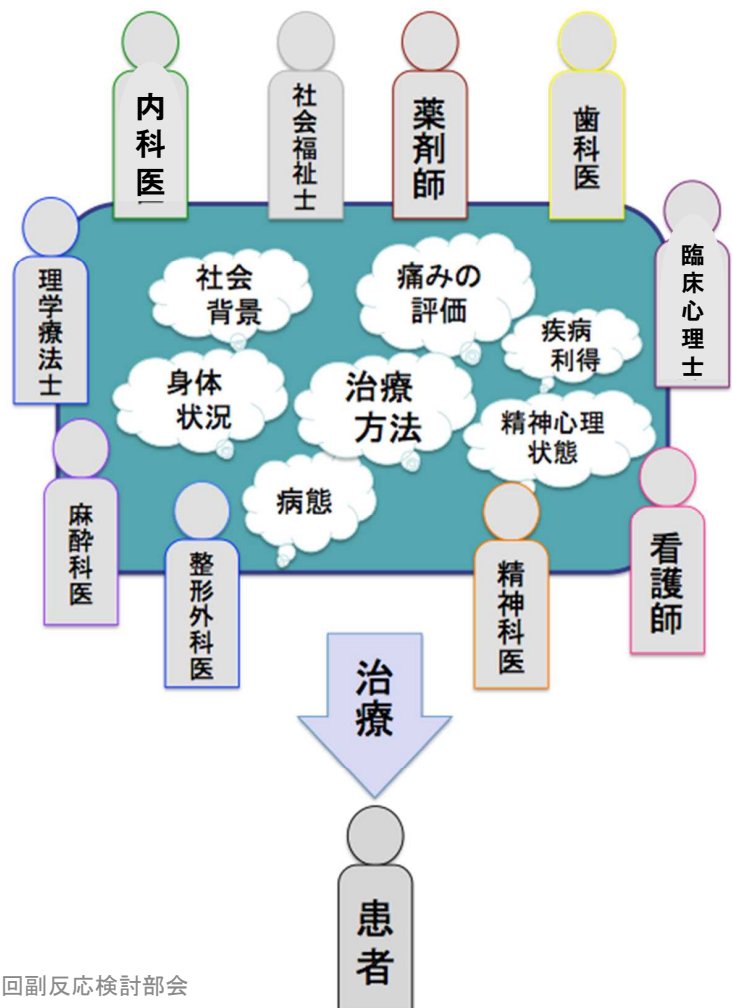
慢性痛を持つ人

慢性痛があっても
日常生活を問題なく
送れている

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

学際的（集学的）治療

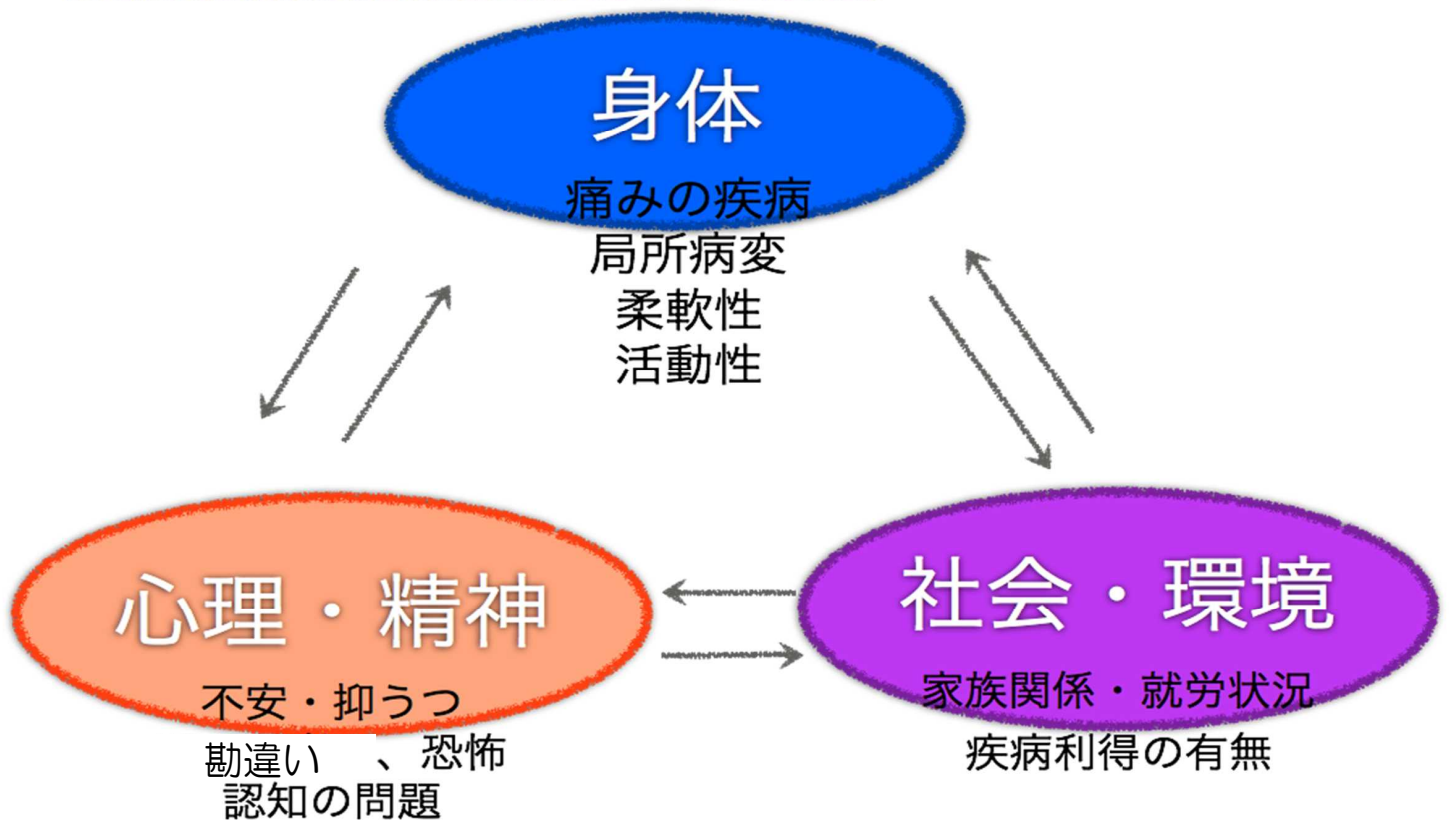
整形外科、麻酔科、精神科、看護師、理学療法士、臨床心理士など複数の学問体系が、同じ空間で一緒に働き、定期的かつ頻繁に患者の情報や治療方針について協議し、統合した治療方針に基づいて治療を実践する



平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

慢性痛に対する評価

BioPsychoSocial Model



平成29年9月22日 第30回副反応検討部会

小児慢性痛に対する実際の治療

投薬 (最小限)

鎮痛薬
漢方

生活の見直し

起床・入眠時間
良質な睡眠
食事

社会

学校への復帰
スマホなどの制限

身体

運動習慣の導入
姿勢の矯正
筋力訓練
ストレッチ

心理

リラクゼーション
カウンセリング

無理をしすぎない。

平成29年9月22日 第30回副反応検討部会